

第1部

がんにかかるお金と経済的リスクへの備え Q&A

第1章

がんとお金 支出編

早期がんと進行・再発がんでは医療費はどう変わる？	4
がんになったらどのくらいお金がかかる？	6
医療費以外にかかるお金にはどんなものがある？	8
がん罹患者が「自分」か「家族」かで治療費への意識が違う？	10
用語解説	12

第2章

がんとお金 収入編

がんを罹患すると仕事や収入にどのような影響がある？	14
がん罹患後のライフプランをどう考える？	16
がんの治療と仕事を両立させるためにはどうすればいい？	18
用語解説	20

第3章

がんによる経済的リスクへの備え方

がんによる経済的リスクに備えるための考え方は？	22
がんの医療費が高額になったらどんな公的制度が使える？	24
がんで介護状態になった場合に使える公的制度は？	27
収入がなくなった(減った)ときに使える公的制度とは？	28
がんに備えるための民間保険にはどのようなものがある？	31
医療保険の特徴と選ぶポイント、最近の動向は？	32
がん保険の特徴と選ぶポイント、最近の動向は？	34
医療保険とがん保険はどちらを選んだら良い？	36
がんに備えるために先進医療特約は必要？	38
収入減に備える所得補償保険とは？	40
がん経験者でも加入できる民間保険は？	42
家族ががんになったら家族の保障も見直しが必要？	44
民間保険の付帯サービスにはどのようなものがある？	46
用語解説	48

●信頼できるがん情報を入手するために 49

第2部

^{リアル}
実例 がんにかかったお金の真実

胃がんの事例	52
大腸がんの事例	58
肺がんの事例	64
前立腺がんの事例	70
乳がんの事例	76
肝臓がんの事例	82

早期がんと進行・再発がん で医療費はどう変わる？

夫(30歳代)が胃がん告知を受けました。早期発見でしたが、再発が心配です。早期がんと進行がんでは医療費はどのように違うのでしょうか？(30歳代女性)



がんにかかる医療費は、がんの種類(部位)と進行度(病期)で大きく異なります。とりわけ進行度、つまりどの程度がんが進んでいるかで治療方法が大きく変わりますので、医療費には影響大です。



早期がんと進行がんの違いとは？

がんの種類にもよりますが、一般的に、早期がんと進行がんの違いは、「がんがどこまで浸潤しているか」によって決まります。たとえば、胃がんや大腸がんなどの場合、胃壁や腸壁の粘膜層内あるいは粘膜下層までにがんがとどまっていれば「早期がん」、固有筋層まで達していたり、それを越えて広がっていたりすれば「進行がん」となります。決して、進行がん＝治らないがんではありません。

ただ早期がんと進行がんでは、治療の目的が異なります。早期がんは完全に治ること、つまり「根治」が治療の目的です。一方、ある程度進行しているがんの場合、手術不能もしくは治療法がない可能性もあるでしょう。ですから、治療の目的は、がんと共に生きてゆくこと、つまり「共存」になります。

(1) 早期がんの医療費イメージ

早期がんの場合、かかる医療費はおもに、①周術期^印*1の医療費(手術、入院費(入院中の医療費含む)、放射線療法など)、②再発予防の医療費(術後薬物療法など)、③定期検査費等の3つに分けられます。当初の根治治療の結果が順調であれば、今後の治療スケジュールがはっきりしますので、おおまかな医療費についても予想が立てやすいでしょう。

(2) 進行がんの医療費イメージ

進行がんの場合、薬物療法のファースト・ライン(一次治療)、セカンド・ライン(二次治療)、サード・ライン(三次治療)というように効果のある治療をその都度行う治療方針がほとんどです。そのため、スケジュールや費用の予想が立てにくいという特徴があります。

また、比較的治癒率が高いといわれる乳がんの場合、5年相対生存率は限局^④*2で98%※を超えています。早期に発見し、適切な治療ができれば、再発リスクが抑えられるということは、がんサバイバーのファイナンシャルプランニングの際には、大きなポイントです。

※出所:国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」

(3) 再発がんの医療費イメージ

再発予防の治療を行っていたにも関わらず、再発^⑤*3するケースもあります。そんなときは、根治のための手術や放射線療法ができれば再発時も行い、その後に効果の期待できる薬物療法を開始します。しかし、手術等ができない場合には速やかに薬物療法に入ることになり、進行がんと同じく、病状に応じた治療を行います。

がんにかかる医療費はどうやって確認する？

手術療法や放射線療法、薬物療法^⑥*4など、おもながんの治療は、告知後1年以内に行われることがほとんどです。したがって、まずはどんな治療を行うのかを確認すること。公的医療保険の適用になる標準治療^⑦*5の場合、具体的な治療内容や検査、入院日数、薬の種類や投薬期間などがわかれば、ある程度、正確な金額がわかるはずです。

確実なのは、主治医等から治療計画を教えてもらい、病院内の相談室や会計窓口(医事課)で確認する方法。なかには、薬剤部と協力して費用一覧を作成している医療機関もあります。

◆早期がんの医療費イメージ

手術療法・放射線療法・薬物療法の費用

入院費

定期検査費

→時間

治療の時期や内容などのスケジュールやかかる費用の予想が立てやすい。

◆進行がんの医療費イメージ

薬物療法の費用
(ファースト・ライン)

薬物療法の費用
(セカンド・ライン)

薬物療法の費用
(サード・ライン)

定期検査費(薬物療法のための入院費用発生の場合もある)

→時間

効果のある治療をその都度行う治療方針のため、スケジュールや費用の予想が立てにくい。

◆再発がんの医療費イメージ:遠隔転移・手術可の場合

手術療法・放射線療法・薬物療法の費用

手術療法・放射線療法の費用

薬物療法の費用
(ファースト・ライン)

入院費

定期検査費

再発

入院費

定期検査費

→時間

基本的に進行がんの医療費イメージと同じ。QOL^⑧*6を優先して治療を行わないことも。

肺がん

プロフィール

長谷部圭祐さん(仮名)

- 48歳 ● 既婚(子どもなし)
- 自営業(シェフ) / 現在の年収約300万円



罹患時
46歳

家族構成

妻(45歳)、猫

罹患の経緯と
現在の治療状況等

約2年前に自宅で転倒し、出血。救急搬送された大学病院で肺がん
と診断。病期はステージIV期。脳に転移しており、脳腫瘍摘出手術の
後に、左肺上葉切除とリンパ節郭清を行った。術後に薬物療法を行
い、現在は、定期的な検査のため通院。

民間保険の加入状況

養老保険(満期保険金100万円、死亡保険金500万円、入院給付金
7,500円(日額)、手術給付金など)、県民共済(入院特約、三大疾病
特約付き)も加入。

罹患後の
生活・就業の変化

経済的備えもなく、お店も閉店。その後、店舗が入居するビルの地域が
再開発になり、引っ越しを余儀なくされる。現在は、定期検査を受けな
がら、新しい店舗物件を探すなど、開店に向けて奔走する日々を送って
いる。

支出について

1年目

1

転倒して頭部にケガを負い、深夜に大学病院の緊急外来を受診。CT検査、X線検査
等を行い、脳神経外科で、左肺上葉部の非小細胞肺がん(腺がん)と診断を受ける。
脳転移があり、そのまま入院。脳腫瘍摘出の手術を行う。入室したのがHCU*だった
ため、室料はかからなかった。

*高度治療室のこと。ICU(集中治療室)と一般病棟の中間に位置する病棟で、ICUよりもやや
重篤度の低い患者を受け入れる。

●検査費用 / (胸部CT検査、胸部MRI検査など)

- 医療費総額……約5万7,000円<自己負担3割: **約1万7,000円**>

●入院費用(手術)(入院期間24日間。2ヵ月にまたがる)

- 医療費総額……約37万円<自己負担3割: 約11万1,000円>
- 入院時の食事一部負担金……約7,000円
- 自己負担……<**約11万8,000円**>

2

退院後、別の大学病院の医師に肺がんの治療法について意見を聞く目的で、セカンドオピニオンを受ける。

●セカンドオピニオン受診

- 医療費総額…… **3万円** 〈全額自己負担〉

3

左肺上葉切除術を受けるため、再入院する。

●入院費用(手術)(入院期間6日間)

- 医療費総額……約17万6,000円〈自己負担3割: **約5万3,000円**〉

4

術後の薬物療法(シスプラチン+ペメトレキセド(アリムタ))による治療を開始(約4ヵ月)。3週間1サイクルを4回行う。最初の2回は入院し(入院期間は1回目が7日間、2回目が3日間)、残りの2回は外来で治療を受けた。

●入院費用(薬物療法)(7日間)①

- 医療費総額……約78万8,000円〈自己負担3割:約23万6,000円〉

入院費用(薬物療法)(3日間)②

- 医療費総額……約68万3,000円〈自己負担3割:約20万5,000円〉
- 高額療養費適用後の自己負担…… **約5万8,000円** (①と②の入院は同じ月)

●薬物療法(抗がん剤治療)

- 医療費総額……約90万6,000円(約45万3,000円×2ヵ月)
〈自己負担3割:約27万2,000円〉
- 高額療養費適用後の自己負担…… **約11万6,000円**

2年目

5

3ヵ月ごとの定期検査。

- 医療費総額……約42万円〈自己負担3割: **約12万5,000円** (約2万5,000円×5回)〉

罹患後約2年間の自己負担額合計 **約51万7,000円**

※ 高額療養費適用後の自己負担額(年収約370万円までの場合) P25参照

赤囲み・赤文字の部分の合計

収入について

罹患時は、自営業で、レストランを経営するオーナーシェフを務めていた。職業柄、最も心配していた、抗がん剤治療の副作用による味覚障害は、まったくなかったものの、告知後は、脳に転移した腫瘍摘出と左肺上葉切除術のための2度の入院や、その後の約4ヵ月間の抗がん剤治療などによって、半年間ほど休業を余儀なくされた。

妻も事業専従者としてお店で働いており、営業できなければ、世帯全体の収入は激減する。その一方で、店舗の家賃や光熱費などのコストは継続して発生するため、その費用が最低でも月額40万円にものぼり、医療費以上に、この負担が非常に重かった。

がん罹患による収入の変化への影響では、個人の収入ばかりでなく、世帯の収入が減った人も約45%います。
(詳細はP15参照)

罹患前の収入 年収約**600万円**

罹患後

年収約**300万円**

「集学的治療」の必要性

おもながんの治療法である手術療法、放射線療法、薬物療法などを単独で行うのではなく、がんの種類や進行度に応じて、さまざまな治療法を組み合わせた治療を行うことを「集学的治療」といいます。各分野の専門医や看護師、技師等がチームを組み、さまざまな治療技術を戦略的に組み合わせた治療を行うことが治療効果の向上には必須となります。

◆ 治療法を組み合わせる集学的治療

